



決めつけはよくない

清水小学校 六年 坂井 達哉

7月は「同和問題啓発強調月間」

県では、同和問題の早期解決を目指して、毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定め、差別をなくすための取り組みを行っています。本市でも、差別意識の解消と人権意識の高揚を図るための取り組みを実施します。

【街頭啓発】

- 日程と場所 7月3日(木) 市内4か所
- 内容 啓発物品、リーフレット配布
- 社会教育課 人権・同和教育係 (TEL 32・9184)

【南校区まちづくりセミナー(無料)】

- 日時 7月13日(日) 10時~11時30分
- 場所 瀬高農村環境改善センター
- 内容 デジタル社会と子どもの人権
- 講師 古野陽一さん (NPO法人子どもとメディア)
- 校区外の方も参加できます
- 南校区まちづくり協議会 末吉 (TEL 62・4817)

【出前講座で上映会をしませんか(無料)】

- 映画 「破戒」全国劇場公開作品
- 監督 前田和男 主演 間宮祥太郎
- 対象 市内在住・在勤の団体
- 場所 市内に限る
- 社会教育課 人権・同和教育係 (TEL 32・9184)

みんなの幸せ願って

「お前が男なら、ここで二発ヒット」
この歌は、ぼくが入っているソフトボールチームが試合のとき、男子が打席に入る前に、みんなで大きな声で歌う応援歌です。ぼくは歌いながら、「うちのチームには女子もいるのに、なんで『男なら』になるのか」と不思議に思い考えてみました。
もし、言われた男子がヒットを打てなかつたら、男ではなくなるのでしょうか。また、女子は、打たなくていいのでしょうか。期待されていないということなのでしょう。ヒットを打つのは、男も女も関係ないはずなのに、これではいやな思いをする人が出てしまうのではないのでしょうか。考えていると、仲間を「お前」とよぶのも気になり始めました。

この歌の裏側には、「男は活やくしなればならない」という決めつけがあると思います。
決めつけは、色や服装、職業などほかにもあります。例えば、保健

の先生と聞けば、女性を思いうかべませんか。消防士と聞けば、男性を思いうかべませんか。しかし、男性の保健の先生がいてもいいし、女性の消防士がいてもいいと思います。そのような周りの決めつけがあると、だれかのしよるの夢をぶすことになるかもしれません。なぜなら、男性が保健の先生になりたくても、「えっ、男なのに。」と言われると、自分の考えは正しくないのかなと思いい、せっかくの夢をあきらめてしまうかもしれないからです。
ぼくたちの回りには、このような決めつけがたくさんありそうです。これからも、決めつけた見方になつていかないか気をつけていこうと思います。

まずは、ぼくのチームの応援歌を次のように変えていきたいと思っています。
「チャンスがやってきた、ここで二発ヒット」



みやまに生きる人 vol.167

農業 江良 登志也さん



マスカットとデラウェアを栽培している江良さんは、以前は土木建築会社に勤めていたが数年前に退職。父がブドウ農家をしていたため、最初はアルバイトのような形で手伝いを始めた。就農した翌年から少しずつ仕事を任せられるようになり、「やってみろ」と父に背中を押されたことを機に今年から経営を引き継いだ。

【みやまのブドウを広めたい】
引き継いだ当初は、うまくやっっていけるか不安が大きかったという江良さん。「自分ひとりだけではやりきれないと分かっていたので、家族に頼りながら仕事をしている」という。消費者の方から「おいしい」という声を直接聞くことが励みになっている。

そんな江良さんの目標の一つは、地元・みやまのブドウを広めること。
「デラウェアは栽培に手間がかかるため、他の地域では生産農家が減っていると聞きますが、みやま市は他の地域に比べてデラウェア農家が多いです。みやま市はブドウの産地としてのイメージがないと思うので、そのイメージがもつと広まるように、周りの生産者さんたちと協力しながら宣伝活動などを行い盛り上げていきたいです。」

【二人前を目指して】
江良さんは、日々試行錯誤を重ねながら、父のもとで知識や技術を吸収している最中。父や家族と支え合いながら、一歩ずつ前へ進んでいる。

「引き継いだばかりなこともあり、次にする作業に気づかないことがあるのですが、そのような時に父は私に言わずに先に作業を始めてしまふんです。そのため、父が次にやることを察して、自分から先に動けるように心がけています。まずは仕事をしっかりと覚え、一人前のブドウ農家になれるよう頑張りたいです。」

